

コロナ禍における学生への対応について

学務部学生課 藤森 祥会



【医学部の唾液によるスクリーニング検査の実績及びPCR検査診療科一覧】

学生の新型コロナウイルス抗原検査結果後のPCR検査担当診療科一覧

	学生人数	病棟実習開始日	検査日	抗原結果判定日	PCR検査担当診療科①	PCR検査担当診療科②	PCR検査担当診療科③	結果	
医学部	5学年	127	8/19(水)PM	8/17(月)	8/19(水)	総合診療科	内分泌代謝内科	消化器内科	※全陰性
医学部	1学年	123	9/24(木)	9/15(火)	9/17(木)	血液・腫瘍内科	腎臓・高血圧内科	脳神経内科	※全陰性
医学部	3学年	123	10/28(水)	10/19(月)	10/21(水)	内分泌代謝内科	呼吸器・アレルギー内科	リウマチ・膠原病内科	※全陰性
医学部	4学年	110	R3年1月12日(月)	R3年1月5日(火)	R3年1月7日(木)	総合診療科	心臓・血管内科・循環器内科	消化器内科	
	5学年	114(11/16W追加)		R3年1月12日(月)	R3年1月13日(水)				
医学部	5学年	17	R3年1月14日(木)	R3年1月12日(火)	R3年1月13日(水)	脳神経内科	内分泌代謝内科	呼吸器・アレルギー内科	

※検査に当たり、検査当日から過去、2週間の行動履歴を検査当日の10時までに学生課に提出を義務付けている。

※検査時正しい検体採取の説明とともに、PCR検査結果陽性の場合の間診票、生活資料表、体調チェック表を配付している。



新型コロナウイルス陽性者入院から授業復帰までの対応について

○都木県の対応：全員入院とする(ただし、他県で陽性となった場合：該当する保健所の指示による)

都木県(保健所)から
A ●PCR検査の結果【陽性】都木県：調布医科大学病院へ入院 (徒歩・自家用車) ★入院方法★
B ●PCR検査の結果【陽性】都木県：都木県内の他院へ入院 : 移動(自家用車または保健所からの指示に従う) ※公共交通機関は禁止

★入院となった学生への対応

- 学生間【長期になるため、教科書等の提供】
- 学生部長【本人への連絡】
- 学生部長【正保認人への連絡】
- 保健センター【メンタル面でのフォロー】
- 県産【メンタル面でのフォロー】

△連絡▽
 連絡後⇒【女子寮以外：アパートへ】
 連絡後⇒【女子寮⇒ホスピタルイン】

退院の基準について

A 10/9以降 - 陽性2回を連続して、連絡させる。
10/8 - 有症者：発症日(検査日)から10日間連続かつ症状軽快後72時間快復調【PCR検査陽性でも連絡】

B 他院の基準により連絡

※自宅待機中の学生のPCR検査は、大手員館とする。(陽性に転移するまでの、PCR検査の費用は大学負担)

○【重要①】A・Bの連絡後、行動については、保健センターにより作成の新型コロナウイルス(陽性のまま)連絡する場合の通知のとおりとする。
 外出については、可能な限り回数減らすようお願いする。

○【重要②】A・Bの学生は、陽性になるまで、週1回もしくは2回のPCR検査を行う。【感染制御センターより、連絡を受け、学生課より学生へ連絡をする】

○【重要③】A・Bの学生のPCR検査は、保健センター長が検体の採取を行い、結果を報告する。

厚労省の基準後連絡し(陽性患者(学生))で2回陰性となるまでの対応

★授業の復帰について
 ⇒授業復帰は、「PCR検査で2回陰性を確認することが条件」
 PCR検査の実施については、学生課より、検査日時・場所を連絡します。2回陰性確認後、学生部長・教務部長・保健センター長・副院長(電話)を行い
 復帰日を決定します。
 合わせて、正保認人へ授業復帰の許可を文書にて連絡する。



★コロナ陽性及びPCR検査該当学生の対応★

R2.12.4

§すぐに入力し、教務課、学生課にて共有する§
※刀川部長、教務部長、学生部長、保健センター長

☞コロナ陽性及びPCR検査該当学生発生【主治医の指示に従うまたは自宅待機を命じる】

※学生⇒ 学年 名前【 】:学籍【 】



教務課対応	学生課対応	学生課対応	学生情報入力	例
①授業への対応 ※休講措置等	①発生日(報告日)の確認	<input type="checkbox"/>	/	8/24
②陽性学生の2週間前の学 内での行動を把握する。 ※授業確認	②陽性学生に、発生日から2週間前の行動履歴の提出を求める (gakuae@dokkyome.ac.jpへ1時間以内に報告させること。) ※病院受診時提出者	<input type="checkbox"/>	/ ~ / 時までに	8/10~24 11時までに提出
③教室の席次等、確認し濃厚 接触者をリスト作成。	③陽性学生の行動履歴から、濃厚接触者を割り出す。 データ(リスト①)を作成し、感染制御センターへ報告(PCR検査を行う学生情報を入力)	<input type="checkbox"/>		
	④濃厚接触者(リスト②作成)にも2週間前の行動履歴を提出させる。	<input type="checkbox"/>	/ ~ / 時までに	13時までに提出



感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気が高揚すると同時に注意力が低下する。また、懸度が低減し、大きな声になりやすい。
- 情に熱中などで切り替わっている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、話し、飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご道では、長時間の食事に出くわすため、感染リスクが高まる。
- 大人数、換気不足以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしで近距離で会話することで、飛沫感染や唾液・目鼻粘膜感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、経カラスクなどでこの事例が報告されている。
- 車内バスで移動する際の中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が維持されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の廊下やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まる可能性がある。
- 休館室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が報告されている。

